

術後 24 時間以内に予防的抗菌薬投与を終了した 犬猫の軟部組織外科症例における 手術部位感染の発生調査

加茂慎太郎¹⁾ 金井詠一^{1),2)} 吉田大実²⁾ 山内章寛¹⁾
大下 諒¹⁾ 工藤綾乃¹⁾ 高木 哲^{1),2)†}



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/79/6/79_e47/_article/-char/ja

- 1) 麻布大学獣医学部獣医学科小動物外科学研究室 (〒 252-5201 相模原市中央区淵野辺 1-17-71)
2) 麻布大学附属動物病院 軟部組織外科・腫瘍外科 (〒 252-5201 相模原市中央区淵野辺 1-17-71)

(2025 年 6 月 9 日受付・2025 年 12 月 8 日受理・2026 年 6 月 12 日公開)

要 約

近年、薬剤耐性菌の問題が深刻化しており、愛玩動物においても抗菌薬の適正かつ慎重な投与が求められている。獣医外科領域では手術部位感染 (SSI) の予防を目的に抗菌薬が投与されるが、術後の継続投与に関するエビデンスは十分でない。そこで麻布大学附属動物病院において清潔創及び準清潔創に分類された軟部組織外科手術を受け、術後 24 時間以内に予防的抗菌薬投与を終了した犬猫 291 例を対象に SSI 発生状況及びリスク因子を調査した。その結果、SSI は 20 例 (6.9%) で認められ、麻酔時間 ($P=0.002$)、麻酔中の低血圧 ($P=0.010$) がリスク因子として特定された。この結果から、清潔創及び準清潔創に分類された軟部組織外科手術において、術後 24 時間以内の予防的抗菌薬投与終了は SSI 発生の増加に寄与しないことが示唆された。

——キーワード：薬剤耐性菌，ワンヘルス，予防的抗菌薬，手術部位感染。

-----日獣会誌 79, e47～e51 (2026)